

國學院大學 経済学部

基礎演習A 2025

授業評価アンケート：分析報告書

経済学部FA（9期） 奥山 怜央

基礎演習A2025

授業評価アンケート 分析報告書

國學院大學 経済学部FA(9期)

奥山 怜央

要旨

本報告書は、2025年度前期に開講された「基礎演習A」の授業評価アンケート結果を分析し、その現状と課題を明らかにしたものである。

分析の結果、学生は授業全体に高い満足感を示していた。特に、学生FA（ファシリテーター・アドバイザー）の貢献は高い評価を得ている。また、授業が目標として掲げた基礎的な学習スキル（リサーチ、シンキング、アウトプット）に関しても、多くの学生がその習得を実感しており、教育目標は概ね達成されていることが確認された。

一方で、授業の満足度が、学生の経済分野全般への関心や、学問全体への学習意欲の向上に必ずしも結びついていない点は課題である。また個人に目を向けると、入学後積極性を低下させてしまった学生が相当数存在しており、原因の特定・今後の改善が必要である。

調査目的と概要	2
調査目的	2
調査概要	2
分析結果	3
Section.1：基礎演習Aへの満足度・学習効果	3
Section.2：基礎演習Aにおいて満足できた項目	8
Section.3：グループワークへの満足度	9
Section.4：授業準備時間	10
Section.5：積極性スコア	11
Section.6：社会人基礎力との授業関連度	13
Section.7：FAの授業への貢献	14
Section.8：自由記述	16
今後に向けて	24
本授業評価アンケートの改善	24
基礎演習A・B授業の改善の観点から	25

調査目的と概要

調査目的

本報告書は、2025年度前期に実施した、基礎演習A 授業アンケートの結果を多角的に分析し、基礎演習Aの教育における現状と課題を明確にすることを目的とする。分析結果は、今後の授業並びにFA¹活動の改善において活用する。

調査概要

調査対象	國學院大學経済学部において基礎演習Aを受講している全学生
対象科目	2025年前期に開講された基礎演習A 全クラス

¹ FA：基礎演習Aの授業において、グループワークの円滑な推進をはじめとするアクティブラーニングの効果的な実施に向けて全クラスに配置される、学生ファシリテーター&アドバイザー。

調査期間	2025年7月17日（木）～2025年7月23日（水） 14回授業時に実施しているため、各クラスによって前後する		
調査方法	Googleフォームを用いた自記式質問紙による Web 調査		
調査項目	基礎演習A受講後の満足度、積極性の変化 他		
回収状況	配布数（履修者総数）	：	545名
	有効回答数	：	409件
	有効回収率	：	75.0%

アンケートの構成

授業評価アンケートは、合計37項目からなる選択式と自由記述形式の2つからなる。複数回答の問2・6・7、自由回答の問4・5・8を除いた項目は、「次の点についてどのように思いますか。各項目で該当するものを1つずつ選択してください」という質問であり、各質問において、リッカート形式の4段階評価（4＝とてもそう思う、3＝ややそう思う、2＝あまりそう思わない、1＝まったくそう思わない）で回答を求めた。

分析結果

Section.1：基礎演習Aへの満足度・学習効果

以下は、「基礎演習を履修して、次の点についてどのように思いますか。各項目で該当するものを1つずつ選択してください。」という設問への回答を集計したものである。（n=409）

項目	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
毎回の授業で学びや気づきがあった	0.2%	1.2%	29.3%	69.2%
毎回の授業に出席するのが楽しみだった	1.2%	7.3%	40.1%	51.3%
クラスの友達ができた	0.5%	3.9%	20.8%	74.8%
クラスの雰囲気よかった	0.0%	2.7%	25.9%	71.4%
基礎演習Aの授業に満足して	0.2%	1.7%	25.4%	72.6%

いる				
大学が好きになった	2.4%	9.3%	47.2%	41.1%
経済学部が好きになった	2.0%	12.7%	50.1%	35.2%
クラスの他の人の前で発言で きるようになった	0.2%	11.0%	46.7%	42.1%
経済や経営に関するメディア 報道を意識するようになった	2.2%	21.0%	49.6%	27.1%
クラスの他の人の発表や意見 が参考になった	0.0%	1.7%	32.5%	65.8%
勉強する意欲がわいた	3.7%	22.0%	45.7%	28.6%
物事に対する積極性が増した	0.7%	12.5%	47.7%	39.1%
自分の能力について考えるよ うになった	0.2%	8.1%	43.8%	47.9%
この授業を通じて、リサーチ スキルが身についた	0.0%	4.2%	46.5%	49.4%
この授業を通じて、シンキン グスキルが身についた	0.2%	4.6%	45.7%	49.4%
この授業を通じて、アウト プットスキルが身についた	0.7%	4.9%	47.9%	46.5%
1年生後期の「基礎演習B」の 勉強が楽しみになった	1.2%	10.3%	42.8%	45.7%
2年生の「専門演習(ゼミ)」に 応募してみたくなった	2.2%	13.0%	41.6%	43.3%
FAがクラスにいてくれてよ かった	0.2%	0.7%	13.9%	85.1%

授業内容とFAへの高い満足度

- **FAの貢献度が高い**：「FAがクラスにいてくれてよかった」という項目は99.0%と最も高い同意

度（とてもそう思う・ややそう思うの合計）を示しており、「とてもそう思う」単独の割合も85.1%突出している。FAが授業運営や学生サポートにおいて非常に重要な役割を果たしていることが伺える。

- **授業の質への満足**：「毎回の授業で学びや気づきがあった」（98.5%）、「基礎演習Aの授業に満足している」（98.0%）といった項目も高い同意度であり、学生が授業内容や全体的な質に非常に満足していることがわかる。
- **クラスの交流と雰囲気良さ**：「クラスの他の人の発表や意見が参考になった」（98.3%）、「クラスの雰囲気がよかった」（97.3%）といった項目も高く、活発な議論や良好なクラス環境が学習効果を高めていると考えられる。

スキル習得と教育成果

- 基礎演習Aでは授業計画を、「本授業では、大学で学ぶための基礎的学修スキル（スタディスキル）を「リサーチ」「シンキング」「アウトプット」の3つの側面から学びます。」と掲げており、授業構成についても同上の3部構成となっている。

「この授業を通じて、リサーチスキルが身についた」（95.9%）、「この授業を通じて、シンキングスキルが身についた」（95.1%）、「この授業を通じて、アウトプットスキルが身についた」（94.4%）といった項目への同意度の高さは、学生が授業を通じて具体的なスキルを習得したと感じている・シラバスに掲げる授業計画が達成されていることを示している。

学問分野や今後の学習意欲に関する課題

- **経済・経営分野への意識の低さ**：「経済や経営に関するメディア報道を意識するようになった」（76.7%）は最も同意度が低い項目であり、授業のみでは学生の経済・経営分野への関心を十分に高められていない可能性がある。
- **学習意欲の伸びしろ**：「勉強する意欲がわいた」（74.3%）も低い同意度であり、授業が学生の学習意欲を喚起する点で改善の余地があることを示唆している。
- **学部やゼミへの関心の伸び悩み**：「経済学部が好きになった」（85.3%）や「2年生の「専門演習(ゼミ)」に応募してみたくなった」（84.9%）も比較的低い同意度であり、学部全体や今後の専門分野への興味・関心をさらに引き出すための工夫が必要と考えられる。

設問項目における共通因子の特定

本セクションでは19の設問項目から、基礎演習Aの満足度・学習効果を確認している。これらの項目から共通因子を探索するために因子分析を実施した。カイザー・ガットマン基準により、因子数を

4と設定し、バリマックス回転により、因子負荷量行列・因子寄与率を求めた結果が以下の表である。

	総合的な満足度と 愛着	学習意欲と主体的 成長	演習環境の質と学 びの実感	学術的スキルの習 得
因子寄与率	0.146	0.142	0.119	0.102
累積因子寄与率	0.146	0.287	0.406	0.508
大学が好きになった	0.693	0.315	0.204	0.139
経済学部が好きになった	0.630	0.424	0.133	0.189
毎回の授業に出席するのが楽し みだった	0.628	0.211	0.384	0.140
1年生後期の「基礎演習B」の 勉強が楽しみになった	0.530	0.311	0.265	0.233
クラスの友達ができた	0.445	0.043	0.333	0.073
勉強する意欲がわいた	0.293	0.689	0.084	0.128
物事に対する積極性が増した	0.304	0.677	0.222	0.167
経済や経営に関するメディア報 道を意識するようになった	0.133	0.606	0.108	0.168
自分の能力について考えるよう になった	0.160	0.522	0.233	0.181
基礎演習Aの授業に満足してい る	0.430	0.127	0.646	0.209
クラスの雰囲気よかった	0.402	0.102	0.579	0.106
FAがクラスにいてくれてよ かった	0.115	0.136	0.558	0.148
クラスの他の人の発表や意見が 参考になった	0.050	0.449	0.510	0.183
毎回の授業で学びや気づきが	0.217	0.244	0.508	0.257

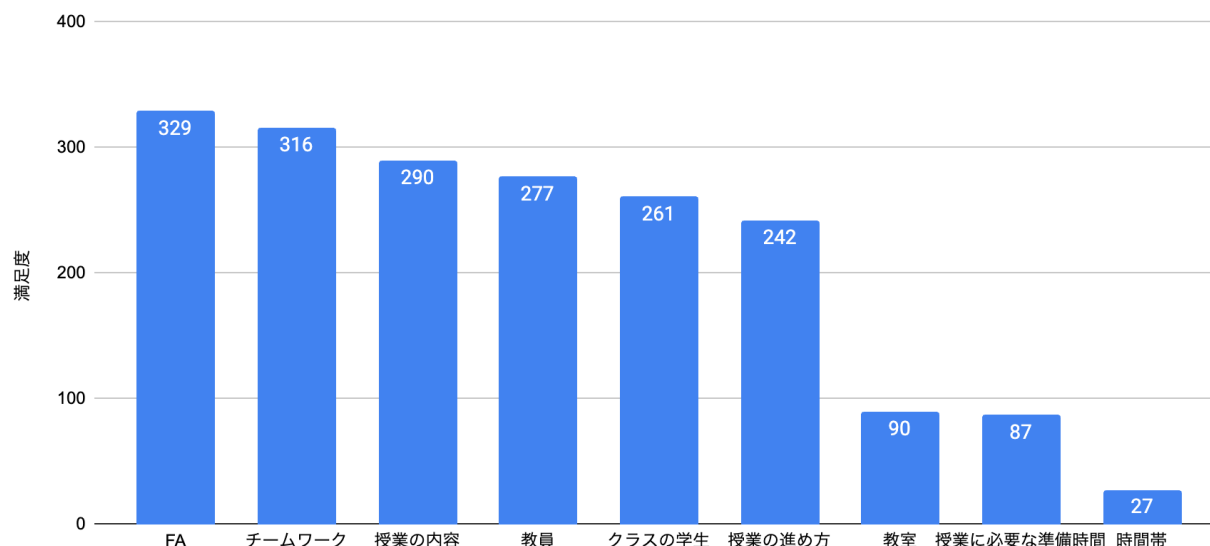
あった				
この授業を通じて、リサーチスキルが身についた	0.093	0.125	0.252	0.749
この授業を通じて、シンキングスキルが身についた	0.181	0.255	0.181	0.724
この授業を通じて、アウトプットスキルが身についた	0.262	0.271	0.136	0.566
クラスの他の人の前で発言できるようになった	0.348	0.351	0.205	0.266
2年生の「専門演習(ゼミ)」に応募してみたくなった	0.395	0.335	0.068	0.202

- **第1因子「総合的な満足度と愛着」**：この因子は、「大学が好きになった」「経済学部が好きになった」「毎回の授業が楽しみだった」といった項目で高い数値を示している。これは、授業への満足感が大学や学部への愛着、すなわち所属意識の形成に強く結びついていることを示唆している。また、「クラスの友達ができた」という項目も含まれることから、良好な人間関係が満足度を高める一因であると解釈できる。
- **第2因子「学習意欲と主体的成長」**：「勉強する意欲がわいた」「物事に対する積極性が増した」といった項目がこの因子に集中している。これは、授業が学生の内面的な学習動機や主体性を引き出す役割を果たしていることを示している。単に知識を得るだけでなく、学ぶことへの姿勢や自己成長の実感につながっている点が特徴的である。
- **第3因子「演習環境の質と協働学習」**：「基礎演習Aの授業に満足している」「クラスの雰囲気よかった」「他の人の発表や意見が参考になった」といった項目で高い値が見られる。これは、授業内容そのものだけでなく、クラスの雰囲気や教員・FAのサポート、そして学生同士の相互作用といった学習環境の質が、学びの質を左右する重要な要素であることを示している。他者から学ぶ協働学習の側面が強く反映されている。
- **第4因子「学術的スキルの習得」**：この因子は、「リサーチスキル」「シンキングスキル」「アウトプットスキル」が身についたという項目で極めて高い数値を示している。他の因子とは異なり、授業を通じて獲得される具体的な能力を測定する次元であると言える。

Section.2：基礎演習Aにおいて満足できた項目

以下は「基礎演習Aに満足できた点について、該当するものをすべて選択してください（複数回答可）」との設問にて得られた回答を集計したものである。

基礎演習Aにおいて満足できた項目



- **FAに対する満足**：FAに対する満足が329件（81%）と最も高く、前セクションの分析で挙げたように、授業運営や学生サポートといった観点から有効であると考えられる。
- **ソフト面の満足度**：次点でチームワークが316件（77%）、授業の内容 290件（71%）、教員 277件（55%）と続く。これらの結果から、授業内容や共に学ぶ人間関係といったソフト面において高い満足度が得られていると解釈できる。
- **ハード面の改善**：一方で、教室の環境 90件（22%）や、授業に必要な準備時間 87件（21%）、授業が実施される時間帯 27件（7%）といった物理的・時間的なハード面では不満が残されている。生活スケジュールの定着のために意図的に1限に開講している、グループワークを扱うことから一定の授業外学習を要求しているといった要因はあるが、授業環境に関しては今後改善していく必要があるだろう。

授業満足度との関係性

セクション2で回答してもらった「基礎演習Aにおいて満足できた項目」を説明変数、セクション1で4段階で回答してもらった「基礎演習Aの授業に満足している」を目的変数として、最小二乗法による重回帰分析を行った結果を下に示す。

授業満足度と各項目満足度の重回帰分析：統計量

項目	寄与度	p値	有意差
教員	0.2784	0	p<0.05
授業の内容	0.1631	0.004	p<0.05
チームワーク	0.1483	0.011	p<0.05
クラスの学生	0.1222	0.03	p<0.05
時間帯	0.0918	0.35	n.s
FA	0.0451	0.527	n.s
授業の進め方	0.0167	0.753	n.s
授業に必要な準備時間	-0.0449	0.507	n.s
教室	-0.0569	0.388	n.s

- 「教員」，「授業の内容」，「チームワーク」，「クラスの学生」に関しては5%水準における有意差が検出された。特に「教員」に関しては寄与度も27%と高く（授業満足度の27%を教員への満足が説明している）重要度の高い要素であることが示されている。

Section.3：グループワークへの満足度

以下は，「基礎演習を履修して，次の点についてどのように思いますか。各項目で該当するものを1つずつ選択してください。」という設問への回答を集計したものである。（n=409）

項目	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
グループ内の役割分担は適切だった	0.5%	5.1%	46.2%	48.2%
グループ内で円滑なコミュニケーションがとれた	0.5%	6.6%	37.2%	55.7%
他のメンバーの意見から，新たな気づきや学びを得られた	0.2%	2.9%	30.3%	66.5%
課題解決に向けて，グループ	0.7%	7.6%	33.7%	57.9%

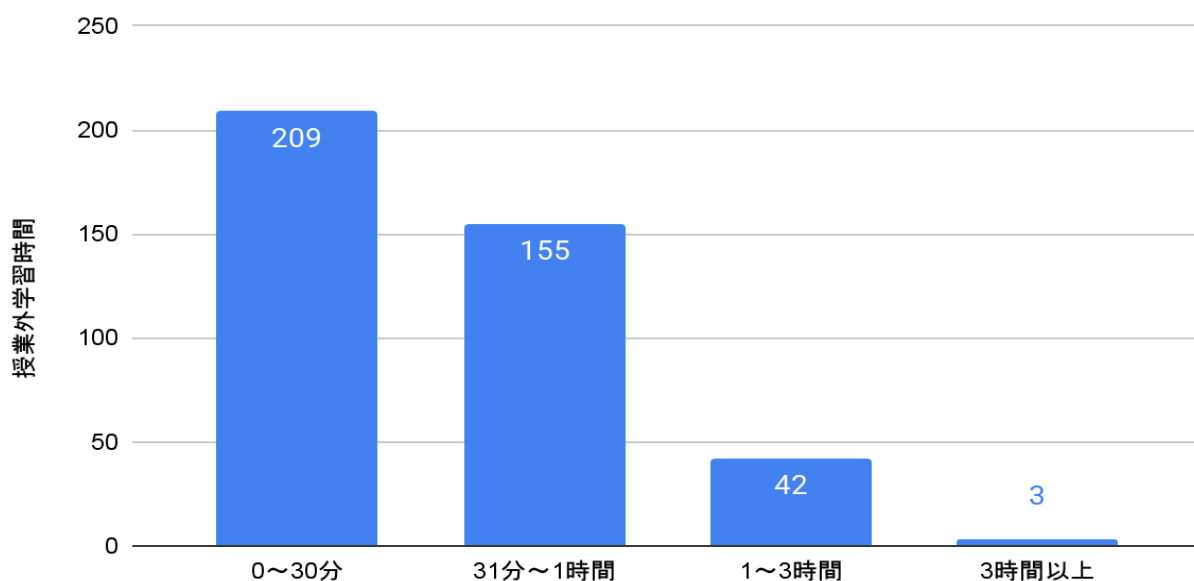
プで協力して計画的に取り組むことができた				
プロジェクト活動を通じて、主体的に問題解決に取り組む力がついたと感じる	0.5%	3.2%	43.3%	53.1%
授業でのグループワーク・課題解決型学習に満足している	0.5%	2.9%	37.2%	59.4%

- **グループワークへの満足度**：「授業でのグループワーク・課題解決型学習に満足している」という設問に対して96.6%の同意が得られており、全体的に授業内で行われたグループワーク・課題解決型学習は満足を得られるものであったと言えよう。
- **グループ内の円滑度**：しかし「グループ内で円滑なコミュニケーションがとれた」や「課題解決に向けて、グループで協力して計画的に取り組むことができた」といった設問では不同意度（まったくそう思わない・あまりそう思わないの合計）がそれぞれ7.1%、8.3%と否定的な割合が目立つ。グループワークの中で、「会話に取り残されている/してしまっている」、「計画的な進行ができていない」といった事例が想定されるため、FAを中心に各グループとのコミュニケーションを図り、より良いワークを作る努力が求められる。

Section.4：授業準備時間

以下は、「基礎演習Aの授業準備に費やす時間は、平均すると1回あたりどれくらいでしたか。該当するものを1つ選択してください。」という設問において、0～30分、31分～1時間、1～3時間、3時間以上のいずれかから選択してもらったものを集計したものである。

授業外学習時間



- 授業外学習時間：最も人数が多いのは「0～30分」で209人。次に多い「31分～1時間」の155人と合わせると、全体の約89%（409人中364人）が1時間以下の学習時間となっている。

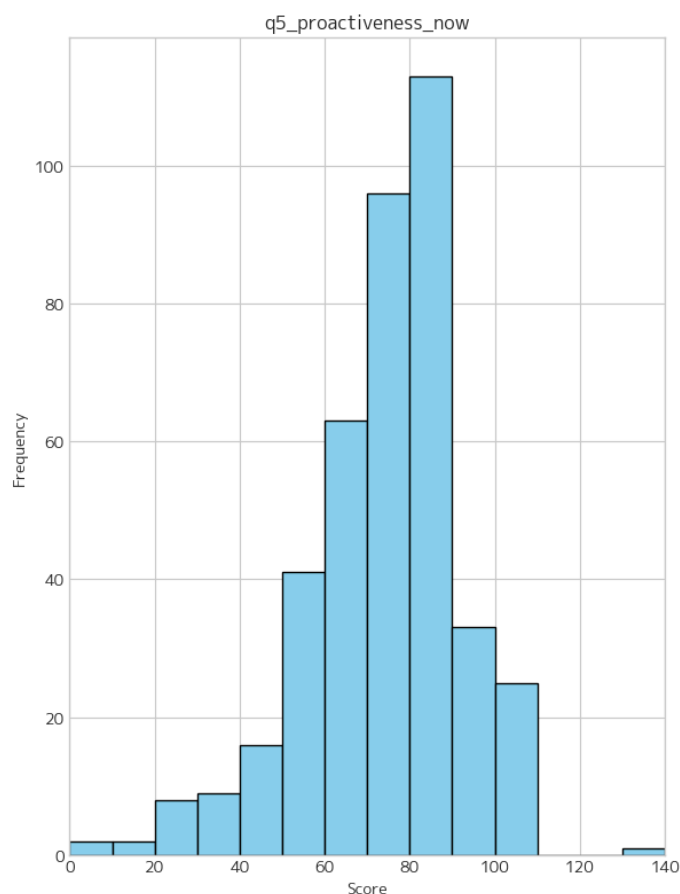
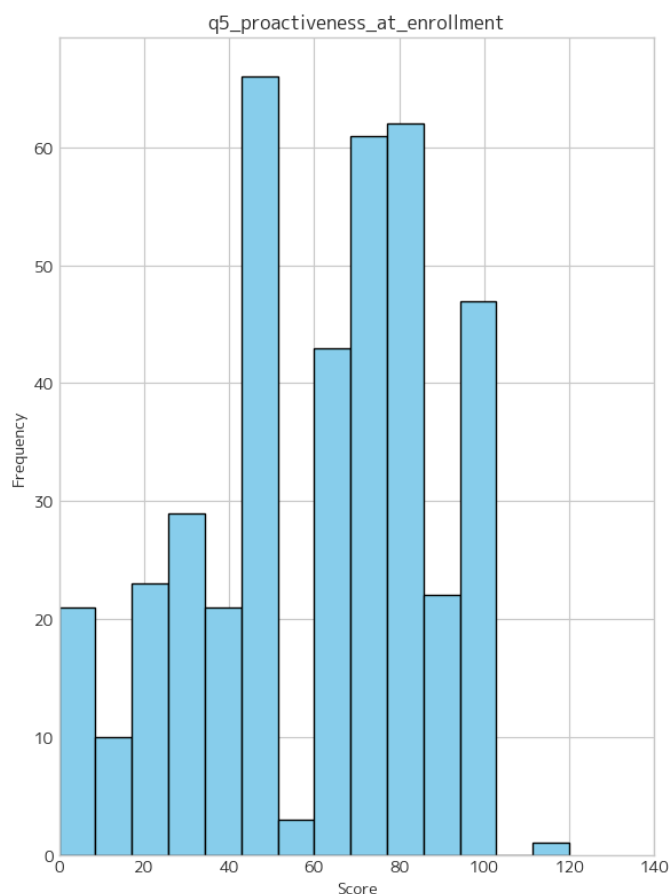
Section.5：積極性スコア

以下は、「あなたが大学で勉強しようとする積極性を入学時と現在で自己採点して下さい。「とても積極的」を100点、「全然積極的でない」を0点として、該当する点数を1つずつ選択して下さい。」という設問²において得られた回答を集計したものである。

入学時・現在の比較

積極性スコア（左：入学時，右：現在）

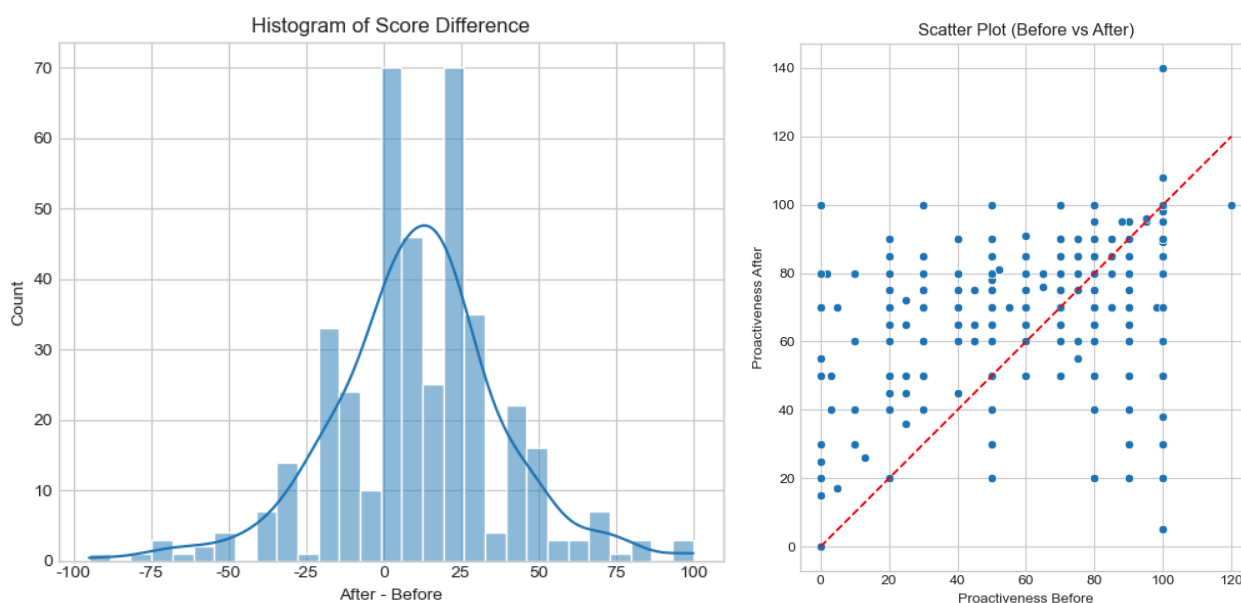
² なお、フォーム上では回答を数値と指定しており、上限値を設定していないため、積極性スコアを100点以上と回答する学生が複数存在した。



- **入学時の二峰性**：入学時の積極性スコアは、平均値 59.7点、中央値 60.0点であるが、分布が50点と80点を中心に二峰性を描いて居ることが特徴的である。これは本学への志望度が第一志望であった学生と、そうでなかった学生（不本意入学）の学生によって生じている結果であると解釈できよう。
- **現在時点でのスコア改善**：現在時の積極スコアでは、平均値 70.5点、中央値72.0点と、平均値ベースで10.8点近い改善を見せており、単峰性で左に裾を長くした分布となっている。

入学時・現在の差分変化量の分析

積極性スコア変化量のヒストグラム（左），積極性スコアの散布図（右）



- **変化量への着目**：全体的には改善傾向にある積極性スコアであるが、変化量を個別に分析すると、改善している学生と、変化なし・悪化している学生が半々近くに分かれていることが、ヒストグラム・散布図（赤い点線の上部に分布している観測値が積極性スコアが改善、点線上は変化なし、逆に下部に分布している観測値が悪化している）の双方からわかる。
- **基礎演習A満足との相関**：基礎演習Aの総合満足度と、積極性スコアの変化量に対して、「双方のスコアは関連していない」という帰無仮説、逆に「双方のスコアは関連している」という対立仮説を設定し、対応のあるt検定・ウィルコクソンの符号順位検定³を用いて統計検定を行った結果、両手法においてp値は0.000であり、5%水準において帰無仮説を棄却。「双方のスコアは関連している」という対立仮説を採択した。

あくまで本結果は、「積極性スコアの変化量が改善傾向にある学生は、基礎演習Aへの満足度が高い」という相関を示すものであり、双方の因果関係を示すものではない。

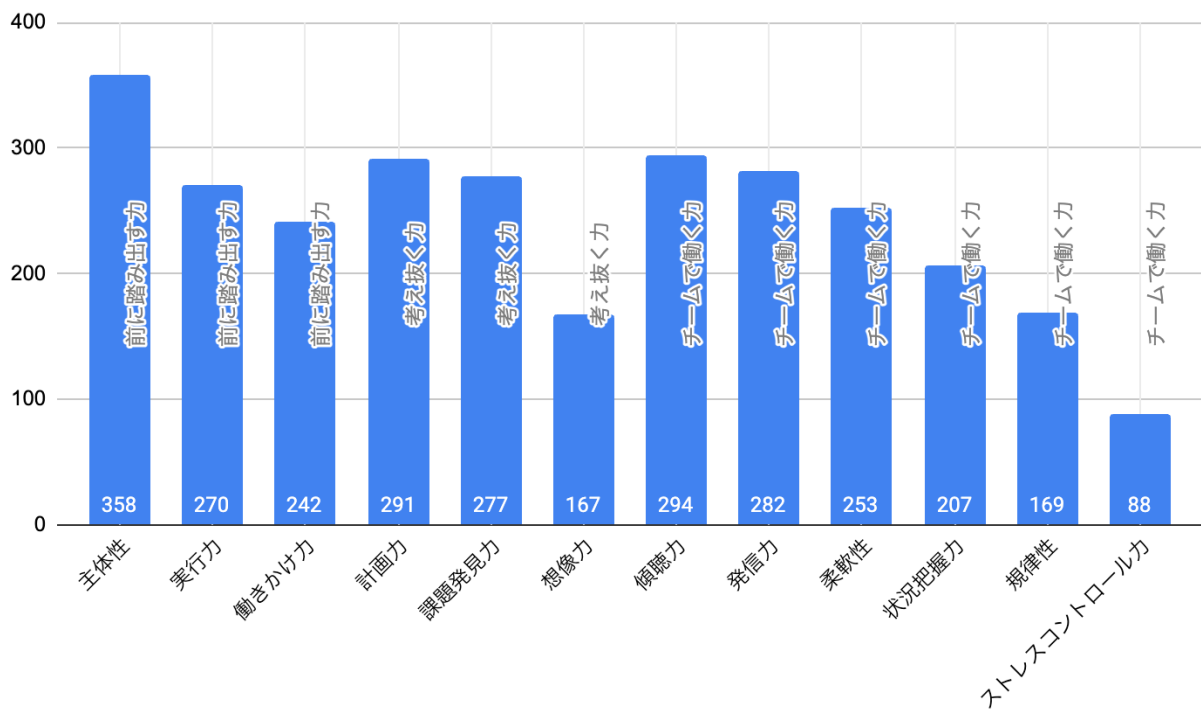
しかし、入学後から積極性が悪化している学生の存在は注目すべきものであり、今後基礎演習を含む授業が影響しているのか、あるいは他の要因が影響しているのか、今後個別の分析が必要である。

Section.6：社会人基礎力との授業関連度

以下は「次の能力の中で、授業内容と関係すると感じたものをすべて選択してください（複数回答可）。」との設問にて得られた回答を集計したものである。

³ 対応のあるt検定は、観測値（積極性スコアの変化量）分布が正規分布に従っていない場合、有効な検定結果が得られないため、ウィルコクソンの符号順位検定も同時に行った。

社会人基礎力との授業関連度

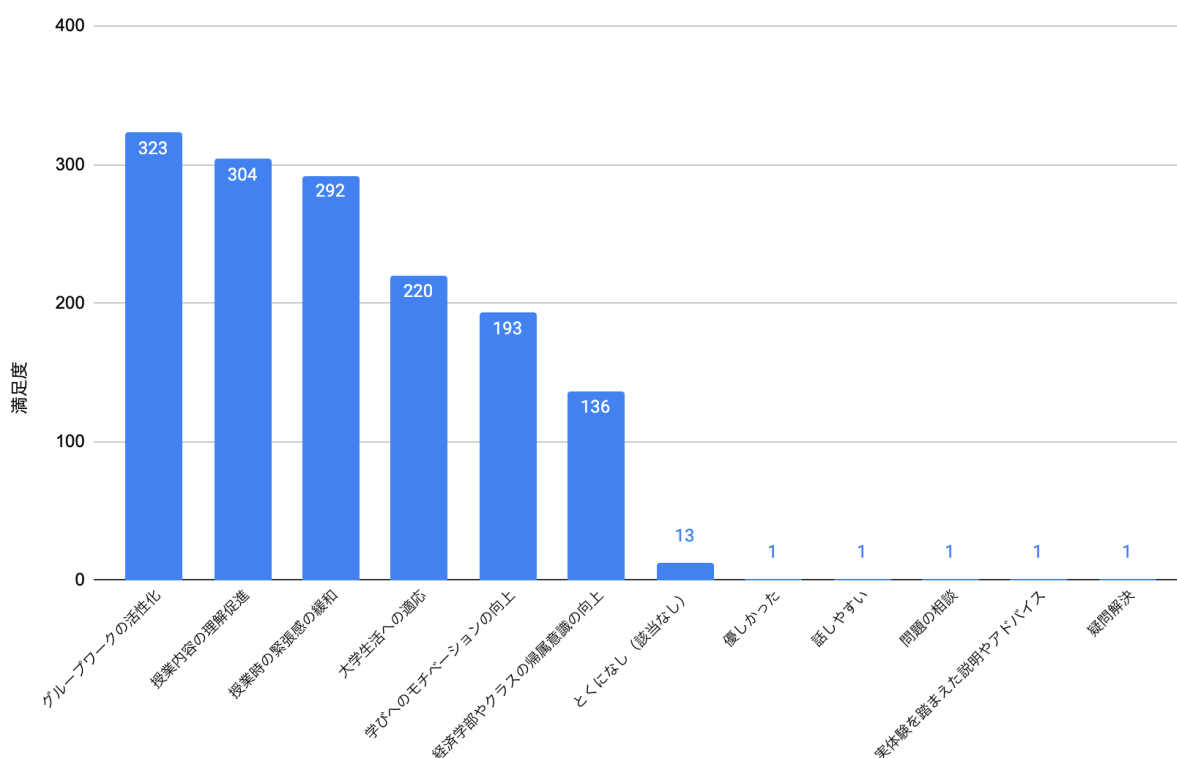


- **最も関連度が高い能力**：最も授業との関連度が高いとみなされている項目は「主体性」で、スコアは358と突出している。これは、授業が学生の自発的な行動を促す上で非常に関連が深いと認識されていることを示唆する。
- **関連度が高い能力**：「主体性」に次いで、「傾聴力」（294）、「計画力」（291）、「発信力」（282）、「課題発見力」（277）といった、思考力やチームで働く上で重要となる基本的なコミュニケーション能力も、授業との関連性が高いと評価されている。
- **関連度が低い能力**：一方で、授業との関連性が著しく低いと見なされている能力もある。特に「ストレスコントロール力」は88と極端に低く、授業を通して身につけるのは難しいと考えられているようである。また、「想像力」（167）や「規律性」（169）も低い値であり、同様に授業との関連が薄いと認識されていることがうかがえる。

Section.7：FAの授業への貢献

以下は「FAのアドバイスやサポートは、具体的にどのような側面で役立ちましたか（当てはまるものすべてを選んでください）。」との設問にて得られた回答を集計したものである。なお本設問では自由回答として、その他回答オプションを有効にしている。

FAの授業への貢献



- **グループワークの活性化**：最も高い満足度を得られた項目はグループワークの活性化であり、323件（79%）の満足を得ている。
- **授業環境の整備**：次点で授業内容の理解促進が304件（74%）、授業時の緊張感の緩和 292件（71%）と続く。これらの結果から学習内容の理解を助け、リラックスして授業に参加できる雰囲気作りに大きく貢献していることがわかる。

FA満足度との関係性

セクション2の分析同様、「FAの授業への貢献」を説明変数、セクション1で4段階で回答してもらった「FAがクラスにいてくれてよかった」を目的変数として、最小二乗法による重回帰分析を行った。⁴

FAの授業貢献とFA満足度の重回帰分析：統計量

項目	寄与度	p値	有意
グループワークの活性化	0.2421	0	p<0.05

⁴ なお本分析では、サンプル数が少ないため、自由記述に寄せられた項目を除いて分析している。

授業時の緊張感の緩和	0.1125	0.012	p<0.05
授業内容の理解促進	0.1105	0.012	p<0.05
学びへのモチベーションの向上	0.0828	0.045	p<0.05
経済学部やクラスの 帰属意識の向上	0.0451	0.318	n.s
大学生活への適応	0.0066	0.872	n.s
とくになし（該当なし）	-0.2872	0.017	n.s

- 「グループワークの活性化」, 「授業時の緊張感の緩和」, 「授業内容の理解促進」, 「学びへのモチベーションの向上」に関しては5%水準における有意差が検出された。特に「グループワークの活性化」に関しては寄与度も24%と最も高く, 授業におけるグループワークへの介入・支援がFA活動において重要度の高い要素であることが示されている。

Section.8：自由記述

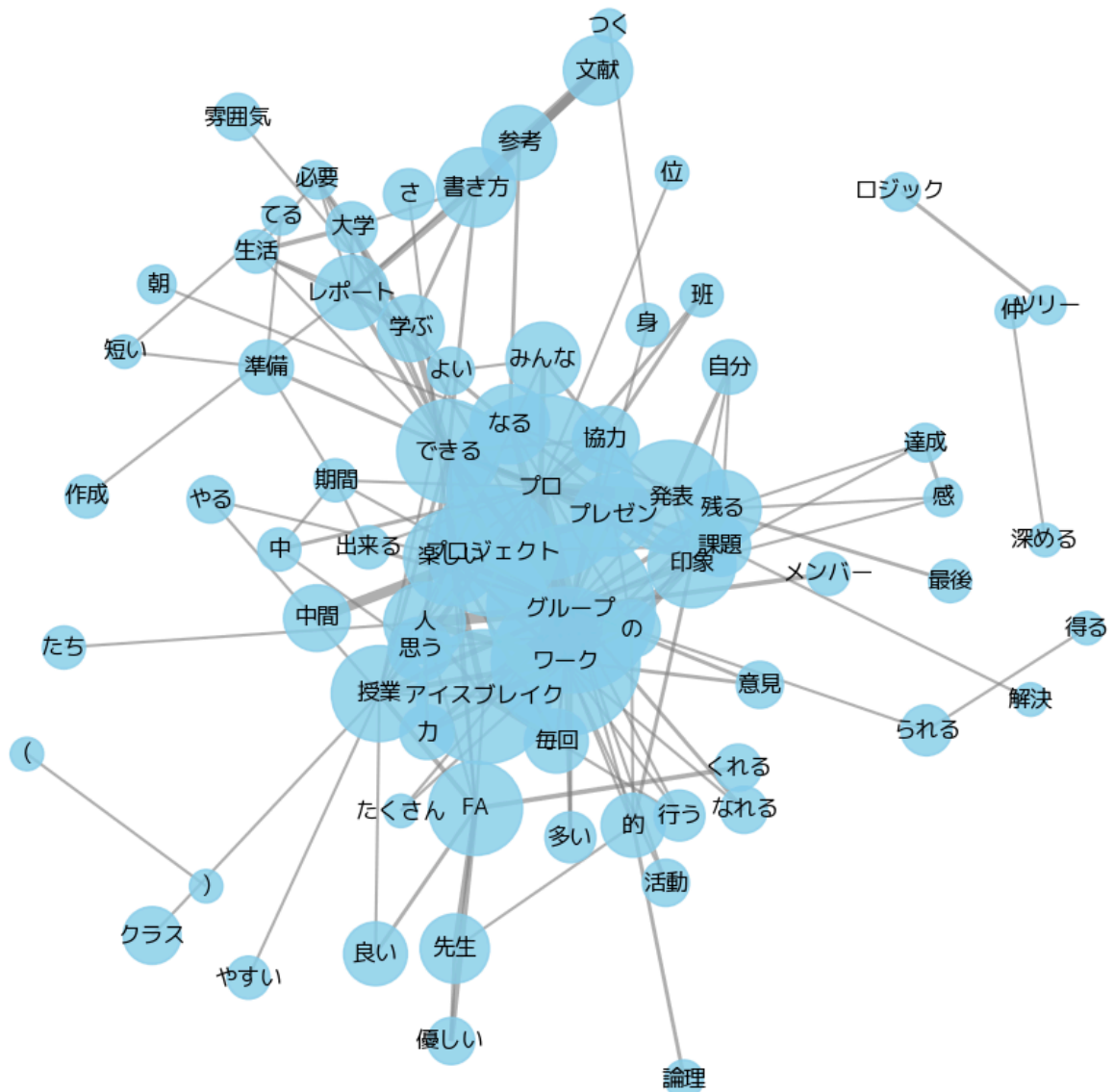
分析の最後に, 自由記述欄に寄せられた回答を取り上げる。

基礎演習Aの授業で印象に残っていること

ワードクラウド・共起ネットワーク図（共起回数閾値=3）

[illegible]

'q9_impressions_free_text' Co-occurrence networks



- 授業を通じて印象に残ったものとして、「グループワーク」「プロジェクト」「中プロ」といった語句が多く取り上げられていた。座学だけでなくワークや課題解決型学習を中核に据えて進行する本授業の特性が現れた結果といえよう。
- また、「アイスブレイク」というワードも頻出していた。入学直後の関係性もあまりない状態で開講される授業であるため、こうしたクラスの雰囲気作りが有用に働くと解釈できる。

一部抜粋

特に多く挙げられた項目：学生が特に印象に残っていると感じたのは、以下の3つの要素に集中

していた。

- 「中プロ」（中間プロジェクト）（43回）
- 「グループワーク」（24回）
- 「アイスブレイク」（21回）

主なカテゴリー別の抜粋

中間プロジェクト（中プロ）関連：最も多くのコメントが寄せられた「中プロ」については、達成感や協力の経験、スキルの習得といった点が挙げられている。

- 達成感と協力
 - 「中プロジェクトが大変だったが終わった時の達成感は何物にも変え難いものであった」
 - 「中プロで班のみんなと協力し合えたこと」
 - 「グループで協力して完成させられたこと」
 - 「プロジェクトで優勝できたこと」
- 経験と学び
 - 「今までにない規模でのプレゼン。良い経験ができた。」
 - 「自分たちだけで計画を立て、スライド作成や発表をすることがあまりなかったので、良い経験になりました」
 - 「情報の集め方、発表の仕方などのプレゼンに関わる全般知識が印象にあり身についた。」

グループワーク関連：「中プロ」と並行して、授業の基本的な進め方である「グループワーク」そのものも、学生にとって非常に印象深いものとされている。

- 人間関係の構築
 - 「グループワークを通して、友達が増えて嬉しかったです！」
 - 「グループワークが多かったのでクラスのメンバーと仲良くなれたこと」
 - 「グループワークで色々な人と知り合えて楽しかった」
- スキルの向上
 - 「グループワークです。自分の発言する力の大切さが印象に残りました。」
 - 「グループワークが多くて話し合いする力が身に付いてよかった。」

アイスブレイク関連：授業の冒頭に行われた「アイスブレイク」は、クラスの雰囲気作りに大きく貢献した。

- 緊張の緩和と交流促進

- 「毎回授業の初めにアイスブレイクをしたこと。これでクラスの人たちとも打ち解けたり、知ることができたと思う。」
- 「アイスブレイクが楽しくて、新しい人とのグループでも馴染むことができたこと。」
- 「FAさんが考えたアイスブレイクが緊張もほぐれてグループの人とも仲良くなれてとても良かったです。」

スキル・知識の習得関連：具体的な学習内容として、特に大学での学習に必須となるスキルが印象に残ったという意見も見受けられた。

- レポート・論文作成スキル

- 「参考文献の書き方」
- 「レポートの作り方」
- 「レポートの書き方や参考文献の書き方など大学生活の必須スキルを学べたところ」

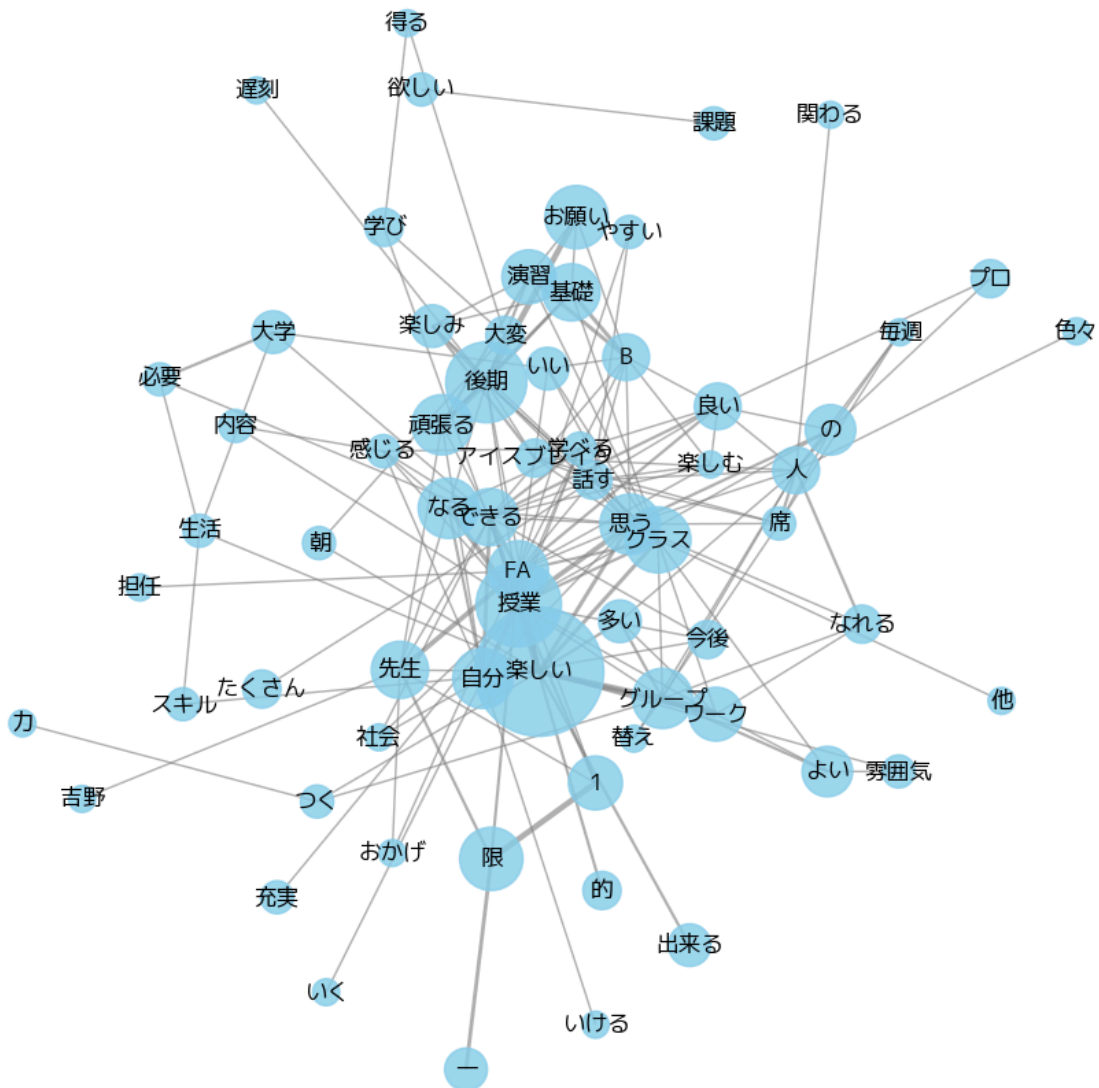
- 思考力

- 「ロジカルシンキング」
- 「MECE」

自由記述（基礎演習Aに対する感想・意見・要望）

ワードクラウド・共起ネットワーク図（共起回数閾値＝2）

'q9_general_feedback_free_text' Co-occurrence networks



- 最も頻出した記述は「楽しい」という感想である。授業を苦しいものではなく、楽しみながら学んでもらえる形で実行できたのは良い成果である。
また共起ネットワーク図から「楽しい」というワードと同時に挙げられた語句として「授業」「FA」「グループワーク」「先生」などが挙げられた。
- また「後期」というワードも頻出し、基礎演習Bに対する期待・熱意も多く表出していた。

一部拔粹

ポジティブな意見：授業内容やクラスの雰囲気に対する好意的な意見が多数寄せられた。

- グループワークや他者との交流について
 - 「グループワークが楽しかったし大学生活で必要なスキルが身についた」
 - 「グループワークが多くて色々な人と仲良くなれてよかった。」
 - 「クラスの雰囲気がよく、とても楽しかったです」
 - 「少人数クラスで楽しかったです」
 - 「話し合う力がついたし、楽しかったです！」
- 学びや成長について
 - 「学び多くて楽しかったです！」
 - 「大変だったけれど一番身になった授業だと思っています。」
 - 「将来に直結して役立つことをたくさん知れてとてもためになる授業だった。」
 - 「卒論でも大切になってくるスキルを学べて良かったと感じます。」
- 先生やFAへの感謝
 - 「先生とFAのお話がとても興味深くで半年間頑張ることができました。」
 - 「FAの方のおかげでリラックスして授業に取り組めました。」
 - 「先生とFAの説明がとても分かりやすかった。」

課題・ネガティブな意見：授業内容そのものへの不満はほとんど見られなかったが、授業時間に関する意見がいくつか見られた。

- 「早起きが辛い」
- 「1限がキツかった」
- 「一限は眠かったけど内容はかなり良かった」
- 「月曜1限じゃなければもっとよかったです」
- 「1限目だと早いのでもう少し遅くしてください」

要望・提案：今後の活動に対する具体的な提案も寄せられた。

- 「大変かもしれないのですが、席替えを毎週したいです。色々な人と関わりたいです。」

後期に向けた意気込み：後期への期待や意欲を示すコメントも多く見られた。

- 「後期も頑張ります」
- 「後期も基礎演習頑張ります。」
- 「後期は欠席遅刻しないように気をつけます！」

今後に向けて

本授業評価アンケートの改善

今回、2025年度 基礎演習Aの分析を行ったが、分析においては幾つかの課題が残されている。

通時的な分析

本分析は2025年度 基礎演習Aの授業評価アンケートのみから分析を行っているが、過去の授業評価アンケートと合わせて分析することによって、新たな示唆が得られる可能性がある。そのため、質問項目に連続性を持たせることや、保存・管理を行うデータ基盤の整備といった観点において、併せて改善の余地があるといえよう。なお、今回はデータ分析においてPythonを使用し、データ可視化にGoogle Sheetを用いた。今後同様の分析を行う際は、今回用いたJupyter Notebookを流用することで、分析の高速化を図れる可能性があることを付言しておく。

データの活用

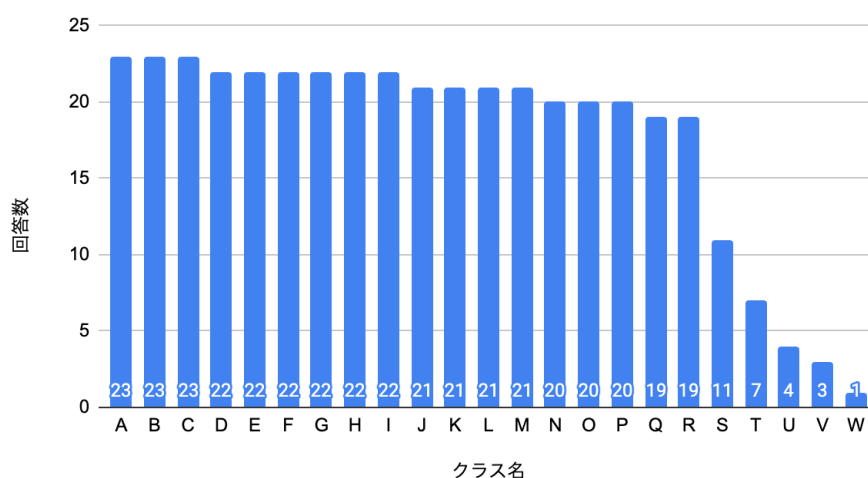
本アンケート・分析の結果を、「2025年前期の活動を総括するもの」のみとして捉えるのではなく、幾つかのKPIを設定する、得られた知見を授業改善やFAが実施している研修会において重点的に取り扱うといった形で、継続的に扱うことによって、より一層の改善効果が期待できる。データから新たな示唆を得て改善する→効果測定を行うといった一連のプロセスを繰り返すデータドリブンな組織への転換によってより効果的な授業・活動となるだろう。

クラスごとの分析

本アンケートの課題として、各クラスによって回答率が異なるという点を指摘しておきたい。

多くのクラスで、受講生に対して80%程度の20件ほどの回答を得ているが、一部のクラスでは回答数が少なかった。分析によってFAや教員という各クラスに

クラス別回答数



よって異なる要素が満足度につながっているという示唆が得られたことから、今後クラスごとに分析する可能性があるが、そうした際には、各クラスで満遍なく回答が得られるよう、授業内でのアナウンスといった工夫が必要である。

基礎演習A・B授業の改善の観点から

学習意欲や経済分野への関心向上

基礎演習内で見たと時の授業満足度や、スキル習得実感が高い一方で、学生の学習意欲や経済分野への関心を十分に引き出せていない点は課題として挙げられる。例えば基礎演習Bの課題解決型学習を実施する際に、経営学の観点から分析フレームを提供する、統計資料を参照してみるよう促すといった工夫から、経済領域に対する関心を引き出すことができるかもしれない。

積極性スコアが低下した学生への働きかけ

全体的には積極性スコアが改善しているものの、半数近い学生の積極性スコアは悪化しているというのは注目すべき事実である。本レポートでは原因に対する考察を実施できていないため、どのような要因によって積極性が落ち込んでしまったのか、今後改善するためにはどうしたら良いのか、検討する必要がある。

授業環境の改善

授業においてハード面の満足度が十分ではなかった。特に教室においては、グループワークを実施する際の座席環境といった面から見直しが要求されている。

社会人スキルの観点における育成スキルの多様化

学生が授業内容と関連が薄いと感じている「ストレスコントロール力」「想像力」「規律性」といった能力について、授業内でどのように育成していくか検討する余地がある。